



空手母国日本・見事全種目制覇！

第9回

松濤杯争奪 世界空手道選手権大会

■日時／2004年9月22・23日 ■会場／日本武道館 ■主催／(社)日本空手協会

空手母国の牙城を守った日本陣営、2大会連続、8種目完全制覇の快挙！

昨年の開催予定がSARS（新型肺炎）騒動のため中止を余儀なくされた第9回松濤杯。1年間の猶予を経て、心技体ともにさらなる充実を果たした日本陣営は、世界各国から集った世界の強豪を日本武道館で迎え撃ち、前回大会に引き続き、見事、全種目完全制覇を成し遂げたのである。



●男子団体相手
若手、ベテランがみ合ったチームワーク

男子団体相手19カ国が出場。日本陣営は志水亮介、根本敬介、大隈広一郎、池長敦志、谷山卓也という若手とベテランの混合チームで臨む。1回戦・チェコ、2回戦・イギリスそして3回戦・アメリカを危なげない組手で勝ち上がる日本は、準決勝

進出。準決勝では前回大会個人組手準優勝のヨハン・ラ・グランジエを擁する強豪・南アフリカと対戦となった。南アフリカチームはスタン・シユミット先生の指導の下、形、組手ともに常に上位に進出し、名選手を輩出してきた。日本チームにとっても怖い存在である。

南ア・先鋒のヨハンは前大会組手2位の実力者。日本は研修生1年目の志水亮介が立ち向かう。この勝負はヨハンの中段回し蹴りの出合いを取るなどした志水が技有り二つを極めて勝利。日本に1勝をもたらす。続く次鋒戦は根本敬介がゴードン・ロイフェを上段逆突き、そして深く突き刺さる中段突きで技有り二つを取って勝利。中堅戦の大隈広一郎こ



▶準決勝 南アフリカの名将ヨハンと日本志水の先鋒戦。志水はヨハンの蹴りを射し勝利。



▶準決勝 次鋒戦。今年の南ア王者ゴードンと根本の対戦は根本が勝利。

そ負けを喫したものの、残る副将、大将とも池長敦志、谷山卓也が勝って4勝1敗として決勝進出を果たした。

一方の準決勝第2試合はアルゼンチンとベネズエラの戦いとなり、これは4勝1分けとしたアルゼンチンが決勝進出。決勝は日本vsアルゼンチンとの顔合わせとなった。日本vsアルゼンチンの決勝戦。アルゼンチンを率いるのは駒大OB

で滞在34年という井上光雄監督。井上先生の指導の下、アルゼンチンは組手・形ともに力をつけてきている。

先鋒戦、志水亮介vsジョルジュ・リヴァスの戦いは狙いすました刻み突き、相手の懐深く潜っての中段突きを極めた志水が勝ってまずは日本に1勝をもたらす。続く次鋒戦、根本敬介vsサルヴェミニ・クリスチャンの対戦は互いに攻めきれず0-0で引き分け。中堅戦、大隈広一郎vsコマス・ガストンの対戦は上段突きに冴えを見せたガストンが技有り二つを取って勝利。

これで1勝1敗1分けとなった所で迎えた副将戦、池長敦志vsパラスソ・パブロの一戦は、前蹴りからの上段突きなどを極めた池長が技有り二つをとって勝利。2勝を上げて大将戦につながる。

▲日本VSアルゼンチンの決勝戦、副将池長は最終相手を圧倒し日本に貴重な2勝目をもたらす。



2勝1敗1分けで迎えた大将戦。日本はエース・谷山卓也の登場。一方のアルゼンチンはガルシア・トゥルン・クリスチャン。今大会絶好調の谷山は全試合で得意の後ろ蹴りを披露。3試合中2回、後ろ蹴りで技有りを奪う調子の良さを見せる。この決勝戦も得意の後ろ蹴りからの上段突きを極めるや、気迫のこもった刻み突きで技有りを二つとって圧勝。谷山卓也、見事日本を優勝に導いた。

最後に極めた谷山は「準決勝までは副将戦までで勝負が決まっていたから、決勝は自分にとつていい舞台が回ってきたと思いました。若手もいい感じで育っているの、次につながる大会になつたと思います」と喜びを語った。



▲決勝戦2勝1敗1引き分けという局面。大将谷山は上段突きを二本極めアルゼンチン・クリスチャンにまったく組手をさせず勝利。日本に松濤林をもたらした。



▲切れ味鋭い攻撃で団体戦全て勝利した先鋒・志水。



▲団体戦負けなしの次鋒・根本。世界大会の大舞台でその実力を遺憾なく発揮した。



▲中堅・大隈は団体戦個人戦に出場。実に11試合戦った。

監督に付いていた小倉靖典コーチは「志水選手は個人戦では残念だったが団体戦ではいい仕事をした。根本選手も負けなしで一度むけたのではないのでしょうか。今後は若い選手に外国人選手との試合の経験をもっともつと積ませてあげたいですね」と語った。

●女子団体組手

全試合3勝0敗で完全優勝!

15カ国が参加した女子団体組手。日本は高橋優子、水野庸子、新井彩可の3人で臨んだ。1回戦・オーストラリア、2回戦・スウェーデンとともに3勝0敗で勝ち上がった日本は決勝進出。決勝は強豪・南アフリカとの対戦となった。

しかし勢いに乗る日本にとって南アフリカといえども敵ではなかった。先鋒・高橋がT・フライを上段突き二発で仕留め、中堅・新井もC・コーヴィンを中段突き二発で撃破。この時点で2勝を上げた日本の優勝が決定、大将の水野もK・ブロンズリーを上段突き二つ

で勝利して3勝を上げて完全優勝を果たした。大将の水野は「楽しかった。前の二人が安定した試合をしてくれたので気持ちにゆとりができました。チームワークの勝利だと思えます」と語った。日本チームの蔵迫研郎監督は「予想通り苦しい戦いになりましたが、若手がよくがんばり、ベテランがよくまとめたと思います。これを次につなげて選手・コーチともがんばっていきたいと思います」と語った。

●男子個人組手

成長著しい海外勢と母国の牙城を守る日本陣営



▲優勝候補筆頭7月の全国大会で初の総合優勝を果たした小林邦雄。

139人が出場した男子個人組手、日本陣営は尾方弘二、志水亮介、小林邦雄、大隈広一郎の4名が出場。その中で期待のルーキー・志水は1回戦でアルゼンチンのサルヴェミニ・クリスチャンを強打し、まさかの反則負け。今年の全国大会で初の総合優勝を飾った優勝候補筆頭小林邦雄も、準々決勝でミロスラフ・フェミツク(スウェーデン)に技有りひとつを奪われ判定負け。その結果、準決勝に駒を進めた日本人選手は尾方と大隈広一郎の2名だった。

大隈 vs フェミツ
 大隈 vs フェミツの準決勝は互いに有効打がなく本戦を終了し再試合。再試合でも勝負が付かず先取りの延長戦にまでもつれ込んだ。この先取りの延長戦はフェミツが上段突きの技有りを取って勝利。大隈はここで姿を消す事となった。



▶準々決勝、尾方とアルゼンチン・ゴメス・ガストンの対戦。尾方のうまさガストンの勢いを止めた。



▶準々決勝、スエーデンのミヨスラフ・フェミツと小林の対戦はフェミツに軍配が上がった。



▶準々決勝、大隈とロシア・ドミトリの対戦は中段突、中段蹴を極めた大隈が勝者。



▶準決勝、大隈とスエーデン・フェミツの対戦は再試合。そして再々試合へとつれる展開に。大隈は再試合こそ主導権をとるも後一歩届かず。



▶再々試合、大隈を出会いの上段突で極めたフェミツが勝者。

一方の尾方は1回戦の対戦相手が何と6回大会(96年)の優勝者であるドン・シャープ(カナダ)。その恵まれた体格から上段回し蹴りで襲ってくるシャープに対して、尾方は深く潜っての中段突きで技有りを二つ取って合わせ一本! 見事、尾方はシャープを下したのである。



▲前大会準優勝、そして今大会三位入賞を果たしたヨハン(南ア)突き、蹴りともに傑出した技術を持つ名手である。

この一勝をきっかけに順調に駒を進める尾方は準決勝へ進出。準決勝では前回8回大会の準優勝者であるヨハン・グランジエ(南アフリカ)との対戦となった。

この勝負は互いに技有りを一つずつ取った後、ヨハンが不用意に出てきたところを尾方の出合いの上段逆突きが極まり尾方が合わせ一本。これにより尾方の決勝進出。フェミツとの頂上対決を迎える事となった。



▶準決勝尾方と南ア・ヨハンの因縁の対戦。前大会でヨハンが準決勝で尾方を下し進出。襲迫した試合展開に。



▶尾方は終始落ち着いてヨハンの蹴り技を封じ込めた。

松濤杯の決勝は全国大会同様、5分間の三本勝負で行われる。決勝で尾方を待っていたフェミツは、長いリーチを活かして蹴り技を多用する選手。リーチにものを言わせ、上段回し蹴りを連発してくるフェミツ。しかし尾方はフェミツの出でくる所をうまくとらえ、出合いの上段突きで技有りをひとつ奪った。

リードを奪われ、さらにどう猛に攻め込むフェミツ。尾方はこの攻撃をことごとくさばき、相手に技有りを与えない。5分間があつという間に過ぎ、時間終了。技有りひとつを守りきった尾方がついに松濤杯の頂点に立った。



▲フェミツの蹴りを捌く尾方、終始試合をコントロールし、技ありを守りきった。



▶スエーデンのミヨスラフ・フェミツが準優勝に。彼はその恵まれた体格を生かした上段蹴り逆突きを駆使し、決勝まで勝ち上がった。

▶今大会三位に入賞した大隈。全国大会は準優勝、そして今大会は三位。無念の涙を吞む。

考えずにゆっくりしたいです」とようやく表情を緩めた。

嬉しい世界大会制覇を成し遂げた尾方は「技有りひとつを大事に、これをいかに守るかに重点を置きました。日本選手が自分しか残っていないプレッシャーでしたが、優勝できてホッとしています。今は」とりあえず何も



▶冷静に試合をコントロールした尾方弘一。昨年の全国優勝に続き、見事栄えある松濤杯王者に輝いた。

●女子個人相手 奥家沙都美、嬉しい優勝!

63名で争われた女子個人組手。日本陣営は奥家沙都美、高橋優子、新井彩可、奥田優子の4人が参戦した。そのうち奥田は2回戦でジグモンド・クリステイナ(ハンガリー)に負けを喫して姿を消す。また新井は準々決勝でニコリック・タチアナ(ユーゴスラビア)と対戦し、再試合から2-1で敗退。しかし残る高橋と奥家が踏ん張りを見せて両者とも決勝進出を果たした。

奥家 vs 高橋、日本人同士の決勝。互いに技有り一つずつ取って時間終了。再試合となった開始5秒、気の抜けていた高橋に奥家が上段突きを放ち、これが一本! 一瞬の隙を突いた奥家が嬉しい優勝を飾った。「最高に嬉しいです。決勝戦はどんな技を出したのかぜんぜん覚えていません。また課題も見つかったのでこれからも精進していきたいと思えます」と、語る奥家。試合前の練習中に右脚親指を骨折してただけにこの優勝の喜びはひとしおであっただろう。



▶今大会、団体相手でも大活躍の高橋は準々決勝も圧倒的な強さでミヤマトウワングルアイを下す



▶奥家は準々決勝、前大会ベスト8に輩出し高橋真由美を倒したハンガリー・オルソリヤと対戦。終始攻めの相手を展開した奥家が勝者に



▶新井とユーコスロビア・ニコリック・ダジヤナの準々決勝、新井は長身のダジヤナを攻略することが出来ずダジヤナが準決勝に駒を進めた



▶前大会二位の南ア・コウビン・ハンガリー・ズイクモンド・クリスティナの準々決勝は終始攻めのクリスティナが勝者に



▶準決勝奥家とダジヤナの対戦。奥家はこの身長差をもとめせず、中段突きを極め決勝へ



▶高橋とハンガリー・クリスティナの対戦。クリスティナはスピード溢れる相手でもこまで勝ち上がったが高橋が鋭い攻撃で勝利、決勝進出



▶今回、団体、そして個人相手と大活躍の高橋



▶ハンガリーのズイクモンド・クリスティナはスピード溢れる相手でもトナメントを席巻した



▶長身からしなやかな突き蹴りを繰り出したユーコスロビアのトリック・ダジヤナは三位入賞



▶決勝はリーチを生かした攻撃が身上の高橋と、安定した相手でもこまで勝ち上がった奥家の対戦となった



▶再試合、上段突きで快心の一本を極めた奥家が見事松澤杯を手中に



▶全国大会に続き見事優勝、栄えある松澤杯を手にした椎名勝利の一手。その迫力は武道の殿堂、日本武道館を震撼させた

●男子個人形 ベテラン・椎名勝利、親子世界チャンピオンに

男子個人形、日本陣営は齋藤裕樹、小林邦雄、谷山卓也、椎名勝利の4人が出場。成長著しい海外勢だが、まだまだこの日本のトップクラスは頭ひとつリードしている。今年の全国大会総合優勝の小林は3番目に登場。五十四歩小で42・6点を出し、それまでのトップに躍り出る。また前回優勝の谷山卓也は得意の壮鎮で43・0点をたたきだし、小林を上回る。しかし7番目に登場した今年の全国大会チャンピオンでもあるベテラン・椎名勝利は日本武道館を揺るがす、重厚な十手を見せて43・3点。これを上回る得点は出ずに椎名の優勝が決まった。椎名は娘の舞ちゃんがジュニアカップ16歳18歳女子組手の部で優勝しており、親娘世界チャンピオンの誕生となった。



▶前大会優勝し、連覇が期待された谷山卓也。今大会は惜しくも準優勝。堂々たる谷山の壮鎮



▶7月の全国大会で総合優勝、そして今大会三位入賞した小林邦雄の五十四歩小



▶四位入賞の斉藤祐樹の雲手。斉藤は団体形優勝の立役者でもある。



▶五位ミヤンマー・ミン・サオウーの雲手。ミヤンマーは今回男子2名が決勝に進む快挙



▶ドイツ・ダフオールは正確な社額で六位入賞。



▶ミヤンマー・ワン・ニコウーは団体形でも演武した観空小で七位入賞



▶八位南ア・バイン・タインの迫力ある雲手。

●女子個人形 女王・中田輝美、堂々の世界2連覇達成!

54名で争われた女子個人形。日本からは城田貴樹、大島望、新垣美紗子、中田輝美の4人が出場。演武順5番目に登場した新垣は切れのある雲手を演じて42・9点とそれまでのトップに躍り出る。しかし演武順7番目に登場した、前回優勝者で全国大会も4連覇はく進中の中田輝美が得意の五十四歩小を演じ43・1点! その後もこれに追いつく選手は現れず、2位となった新垣美紗子に0・2点差で見事、優勝! 松濤杯2連覇を達成した。優勝した女王・中田は「全国大会の時よりもプレッシャーはありませんでした。技の組み立てもうまく行っただと思います」と喜びを語った。



▶7月の全国大会、そして松濤杯を手にした中田輝美の五十四歩小。松濤杯二連覇を達成した。



▶全国大会に続き、惜しくも連優勝となつた新垣美紗子の雲手。団体形でも日本の優勝に大きく貢献した。



▶次世代を担う大島望、岩壁で二位入賞



▶五十四歩小を演武した城田貴樹は四位入賞。団体形でも大活躍した。



▶五位にはミヤンマーのタウングルアイが入賞。形は五十四歩小。



▶ドイツのレジーナは二十四歩で六位入賞した。



▶七位入賞のオーストラリアのフッツジキルドの五十四歩小



▶八位入賞の南ア・フレンドの五十四歩大

●男子団体形

20チームが出場した男子団体形。日本は齋藤祐樹、産方弘二、栗原一晃の3人で臨んだ。予選をクリアし8チームで争われた決勝では日本は演武順8番目に登場。雲手を見事に演じ、それまでトップだったミャンマーの観空小の42・7点に0・5点差を付ける43・2点を叩き出した日本が優勝を遂げた。ミャンマーチームは昨年も谷山卓也指導員の指導を受けており、着実に力をつけた成果であると言えよう。

三位にはカナダ(雲手)、4位には南アフリカ(雲手)、スイス(五十四歩小)が入賞した。



▶日本は抜群の安定戦上手さで、松濤杯優勝の栄冠に輝いた。



▶個人の實力も群を抜いており、若さもある。今後の活躍が期待される。



▶見事な優勝を果たしたミャンマーチーム。切れのある観空小を演じた。ミャンマーはWKFアジア大会においても準優勝し、實力は折り紙つき。谷山指導員が、去年も指導し、実力を上げて、今、日本にもっと近いチームである。



▶カナダは団体形の上位常連チーム。今回は3位入賞した。形は雲手。



▶名手ヨシハを擁する南ア。今回は惜しくも四位となる。形は雲手。



▶スイスチームは切れのある五十四歩小で四位入賞。



▶団体組手で準優勝したアルゼンチン。形でも五位入賞を果たす。形は五十四歩小。

●女子団体形

地力見せた日本、圧倒的勝利!

12カ国が参加した女子団体形。日本は新垣美紗子、東千春、城田貴樹のチームで臨んだ。予選通過後、8チームによる決勝戦で、日本は雲手を演じ、

41・8点の最高得点。堂々の優勝を果たした。チームリーダーの新垣は「このチームで優勝できて本当に良かった。またこのチームを組めたらと思います」と喜びを語った。

演武中、東がつまづく場面もあったが、審判団はこれを0・1点マイナスで採点。それでも最高得点を出すあたり日本の地力を感じさせた。

見事な雲手を演じ、松濤杯を制した日本チーム。右から東、新垣、城田。



写真提供
チャン、JKFan様
ニューヨーク、城田様



▶準優勝ドイツは切れのある二十四歩を演じた。



▶南アは力強い五十四歩小で三位入賞した。

第9回 松濤杯争奪世界空手道選手権大会結果

日時:平成16年9月23日(木)
場所:日本武道館

個人戦一般男子組手

- 優勝 尾方 弘二(日本)
- 準優勝 ミヨスラフ・フミク(スウェーデン)
- 三位 大隈 広二郎(日本)
- 三位 ヨン・クランジェ(南アフリカ)

個人戦一般女子形

- 優勝 椎名 勝利(日本)
- 準優勝 谷山 卓也(日本)
- 三位 小林 邦雄(日本)

個人戦一般女子組手

- 優勝 奥家 沙都美(日本)
- 準優勝 高橋 優子(日本)
- 三位 ニリック・タジャナ(ユーゴスラビア)
- 三位 ズイクモンド・クリステイナ(ハンガリー)

個人戦一般女子形

- 優勝 中田 輝美(日本)
- 準優勝 新垣 美紗子(日本)
- 三位 大島 望(日本)

一般男子団体組手

- 優勝 日本
- 準優勝 アルゼンチン
- 三位 南アフリカ

一般男子団体形

- 優勝 日本
- 準優勝 ミャンマー
- 三位 カナダ

一般女子団体組手

- 優勝 日本
- 準優勝 南アフリカ
- 三位 スウェーデン

一般女子団体形

- 優勝 日本
- 準優勝 ドイツ
- 三位 南アフリカ

第9回松濤杯争奪

少年世界空手道選手権大会

日時◆9月19日 会場◆幕張メッセ
主催◆社団法人 日本空手協会

日本選手団、 全32種目完全制覇!!



▲千葉県代表の加門祐樹、
椎名舞選手による選手宣誓

一般の部に先駆けてジュニアカップが9月19日(日)に、幕張メッセイベントホールにて盛大に開催された。9歳から16〜18歳の部まで形・組手、全32種目において覇が競われ、

男子12歳組手・形・完全優勝の藤沼凌丞(茨城)。全国大会でも完全優勝を果たし、今後の活躍が期待される。



日本選手団は全種目において完全制覇を成し遂げた。

その中でも12歳の部で藤沼凌丞(日本)が形・組手の双方で優勝を遂げ注目を集めた。

8月に開催された小・中学生の全国大会でも形・組手のダブル優勝を果たしており、これからのさらなる活躍が楽しみな選手である。

形では力強い岩鶴を演じきり、36・5点と2位の橋口拳吾(日本)の燕飛に0・1点差をつけて見事優勝を果たし、組手の部でも好調にトーナメントを勝ち上がり、今年4つ目のタイトルを掴んだ。

椎名舞、

親子で世界チャンピオンに



▲女子16〜18歳組手優勝の椎名舞は形でも三位入賞。親子で松濤杯優勝という快挙を成し遂げた。

「一緒に世界大会に出場しよう」と親子で交わされた約束。前回大会覇者の椎名舞(日

本)は、7月に開催された全国大会で優勝を遂げ、同じく一般男子形の部を制した父・勝利と共に今大会の出場権を手中にし、約束は果たされた。

女子組手16〜18歳の部、決勝の舞台に姿を現したのは斎藤礼子(日本)と椎名舞(日本)。

斎藤は椎名より一つ上の高校3年生。前回大会では14歳の部で優勝を遂げており、こちらも実力者である。今大会も初戦から絶好調な勝ち上がりを見せる斎藤は、準決勝で

ALEATHA ADONIS(南アフリカ)を相手に2-0の快勝で決勝へと駒を進めた。そして反対のブロックからは椎名が田口を2-1で下し決勝進出を決めた。

覇者同士の対決となった決勝戦。斎藤の繰り出す中段突きを椎名は冷静に見極め、中段・上段突きを続けて極めて見事連覇を成し遂げた。「みんなから胴上げをしてもらったのがすごく嬉しかったです。これからも活躍できるように頑張ります」と、後日一般男子形の部で父・勝利も優勝を果たし親子で世界チャンピオンの座に着き、喜びもひとしおとなった。

ウォーターハウス姉妹が 今年も1・2位を独占!



▲女子16〜18歳形の部、全国大会に引き続き優勝したウォーターハウス美希(兵庫)の岩鶴



▲準優勝のウォーターハウス亜耶(兵庫)の岩鶴

16〜18歳女子形の部ではウォーターハウスの美希・亜耶姉妹が登場。前回大会の優勝は妹の亜耶、準優勝は姉の美希。今年の全国大会での優勝は美希、準優勝は亜耶とここ何年かにわたりウォーターハウス姉妹が1位・2位を独占してきた。とても仲の良い双子であるふたりは一番の理解者でもあり、最大のライバルでもある。連覇を狙う亜耶と、全国大会との2冠を狙う美希。共に得意形とする岩鶴を演じ、美希が37・0点の高得点を弾き出し、続く亜耶は36・9点と0・1点及ばず今年も美希が優勝を果たした。また組手の部を制した椎名舞が3位入賞を果たし、形でも活躍を見せた。優勝を遂げた美希は「今日は少し緊張しましたが、自分にとってベストな形が打てました」と笑顔で語り、準優勝となった妹の亜耶は「全国大会では美希に負けてしまったので、世界大会は美希だけには勝ちたいと思って臨みました。結果は準優勝でしたが納得のいく形が打てたので悔いはありません」と清々しい表情で語った。

(写真提供 チャンプ・JKFA様)



男子16〜18歳組手の部を制した竹田純也は全国大会でも優勝した実力者。今後の活躍が期待される。



▲三位入賞の徳野真規(千葉)



▲惜しくも準優勝、上田大介(山口)



▲男子16〜18歳形の部優勝の加門祐樹(千葉)。全国大会の雪辱を果たす。



女子15歳形の部優勝の筒井仁美(大分)



男子13歳形の部優勝の元木慎也(愛媛)

女子13歳組手優勝の高橋真澄(群馬)



女子12歳組手の部優勝の菊池美月(青森)



女子12歳形優勝の伊藤玲奈(三重)



全国大会・相手・形完全優勝の掃部友志は男子11歳形の部で優勝。相手でも三位入賞を果たした。今年最も活躍した少年拳士の一人である。



▲11歳形の部優勝の遠藤千夏(埼玉)。



▲男子9歳組手の部優勝の美濃部将啓(東京)は全国大会に続き連覇達成。



▲女子9歳形の部優勝の山田香蓮は全国大会に続き連覇達成。



▲女子9歳組手の部優勝の相澤佳菜(宮城)



個人戦9歳女子形

優勝 山田 香蓮(三重)
 準優勝 水野 椎浩(静岡)
 三位 泉 梨奈(三重)



個人戦9歳女子組手

優勝 相澤 佳奈(宮城)
 準優勝 BRONNYN FREEMAN(SOUTH AFRICA)
 三位 手嶋 彩乃(兵庫)
 三位 加藤 胡桃(静岡)



個人戦9歳男子形

優勝 清水 大輔(山梨)
 準優勝 秋山 達也(新潟)
 三位 袴田 健史(神奈川)



個人戦9歳男子組手

優勝 美濃部 将啓(東京)
 準優勝 清水 芳隆(大阪)
 三位 林 史隆(大阪)
 三位 CHARL VANDEN BERG(AUSTRALIA)



個人戦10歳女子形

優勝 市川 美久(埼玉)
 準優勝 工藤 淑(山梨)
 三位 古澤 香寿美(新潟)



個人戦10歳女子組手

優勝 金森 夏美(東京)
 準優勝 田口 夢子(宮城)
 三位 細谷 有希(茨城)
 三位 李 亦然(茨城)



個人戦10歳男子形

優勝 稲見 研人(埼玉)
 準優勝 榊原 拓也(山梨)
 三位 成田 恵基(青森)



個人戦10歳男子組手

優勝 奥齊 尊偉(秋田)
 準優勝 森林 貴敏(宮城)
 三位 FRANCHESCO RUPERTI(VENEZUELA)
 三位 FRANCHES TAMARGO(VENEZUELA)



個人戦11歳女子形

優勝 遠藤 千夏(埼玉)
 準優勝 谷地 愛美(岩手)
 三位 SARA MALVAR MAVA(BRASIL)



個人戦11歳女子組手

優勝 大石 侑奈(宮城)
 準優勝 三上 沙希子(岩手)
 三位 砂子澤 奏美(岩手)
 三位 増田 真子(静岡)



個人戦11歳男子形

優勝 榊 友志(三重)
 準優勝 早田 和磨(佐賀)
 三位 柴田 知伸(愛知)



個人戦11歳男子組手

優勝 水本 洋介(岩手)
 準優勝 高橋 翼(宮城)
 三位 DYLLAN HILES(SOUTH AFRICA)
 三位 榊 友志(三重)



個人戦12歳女子形

優勝 伊藤 玲奈(三重)
 準優勝 野路 愛美(大阪)
 三位 五十嵐 梨花(大阪)



個人戦12歳女子組手

優勝 菊池 葉月(青森)
 準優勝 鈴木 梨紗(宮城)
 三位 BASUSONA ANDERAC(CZECH REPUBLIC)
 三位 赤木 希(熊本)



個人戦12歳男子形

優勝 藤沼 凌丞(茨城)
 準優勝 橋口 拳吾(福岡)
 三位 古川 尚人(青森)



個人戦12歳男子組手

優勝 藤沼 凌丞(茨城)
 準優勝 吉宮 啓太(福岡)
 三位 里村 龍(青森)
 三位 野口 雅浩(茨城)

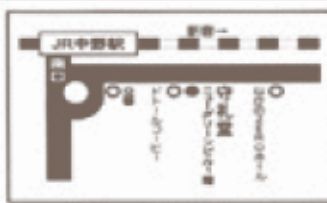
専用空手衣新登場!

常に妥協することなく新しい伝統を築きあげてきた「守礼堂」が、激しい運動にも柔軟に対応する新素材から生み出した、形、組手専用空手衣。軽く、しかも激しい動きに対応する芯の強い形専用空手衣「ニューウェーブ」あらゆる動きに対応する強度、伸縮性、軽さを備えた組手専用空手衣「フリーアクション」常に最高のパフォーマンスを引き出す空手衣です。

守礼堂 本社
 〒900-0012 沖縄県那覇市泊1丁目1番6号 TEL (098) 861-5621・FAX (098) 861-5525
 FreeDial 0120-612341・FreeFax 0120-612342

関西 守礼堂
 〒536-0008 大阪市城東区関西2丁目12番36号 TEL (06) 6931-8864・FAX (06) 6931-8863

九州 守礼堂
 〒890-0023 鹿児島市永吉町3丁目10番15号 TEL (099) 255-8471・FAX (099) 255-1547



守礼堂 東京支社
 〒164-0001 東京都中野区中野2丁目23番1号
 ニューグリーンビル1階103号
 TEL (03) 5342-3051・FAX (03) 5342-3052
 URL www.karate-do.co.jp/shureido
 e-mail shureido@orange.ocn.ne.jp
 ●営業時間 9:00~18:00 ●定休日 日曜・祝日



個人戦13歳女子形

優勝 橋爪 美紅(新潟)
準優勝 村上 千佳(愛媛)
三位 服部 幸恵(福岡)



個人戦13歳女子組手

優勝 高橋 真澄(群馬)
準優勝 松下 葉奈(大阪)
三位 伊藤 さくら(長野)
三位 佐藤 三咲(福島)



個人戦13歳男子形

優勝 元木 慎也(愛媛)
準優勝 村上 力(岩手)
三位 鈴木 秀菜(静岡)



個人戦13歳男子組手

優勝 岩丸 龍吾(福岡)
準優勝 MICHAEL IMIAK (VENEZUELA)
三位 遠藤 太尊(千葉)
三位 瀧口 健(山梨)



個人戦14歳女子形

優勝 葛西 由里加(東京)
準優勝 松本 知佳(神奈川)
三位 川戸 愛華(京都)



個人戦14歳女子組手

優勝 草野 有香(東京)
準優勝 太田 光香(静岡)
三位 高橋 麻琴(宮城)
三位 対馬 由万(青森)



個人戦14歳男子形

優勝 石澤 総一郎(北海道)
準優勝 高山 翔太(三重)
三位 相馬 昂翔(青森)



個人戦14歳男子組手

優勝 成澤 正和(山形)
準優勝 石山 健太(茨城)
三位 京増 義宗(神奈川)
三位 中村 洸(青森)



個人戦15歳女子形

優勝 筒井 仁美(大分)
準優勝 高木 綾乃(新潟)
三位 深作 世里乃(茨城)



個人戦15歳女子組手

優勝 鶴谷 舞子(青森)
準優勝 青木 瞳(神奈川)
三位 加藤 智弘(新潟)
三位 JEANETT TALLIS FURNES(NORWAY)



個人戦15歳男子形

優勝 小林 優祐(北海道)
準優勝 阿部 翔太(宮城)
三位 SCHENK CONSTANTIN(GERMANY)



個人戦15歳男子組手

優勝 芥川 昌宏(静岡)
準優勝 工藤 正太(青森)
三位 鈴木 崇仁(茨城)
三位 PATRICK WOODS(NORWAY)



個人戦16~18歳女子形

優勝 ウォーターハウス・美希(兵庫)
準優勝 ウォーターハウス・重耶(兵庫)
三位 椎名 舞(千葉)



個人戦16~18歳女子組手

優勝 椎名 舞(千葉)
準優勝 斉藤 礼子(福島)
三位 ALEATHA ADONIS(SOUTH AFRICA)
三位 田口 陽子(長野)



個人戦16~18歳男子形

優勝 加門 祐樹(千葉)
準優勝 上田 大介(山口)
三位 徳野 真規(千葉)



個人戦16~18歳男子組手

優勝 竹田 純哉(山口)
準優勝 遠藤 真士(宮城)
三位 伊藤 大地(千葉)
三位 大澤 盛広(宮城)

形態安定空手衣 NST

軽くて縮まない空手着“NST”。一流選手をサポートするブランドです。

インターネットで
気軽にEメール
でご注文を!!

www.toukaido.co.jp

Eメールアドレス tokaido@par.odn.ne.jp



空手衣の **東海堂**

お申し込み・
お問い合わせ

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-12-14 麹町KYビル6F
TEL / 03-3262-0281 (代表) FAX / 03-3234-9387

空手道修業者心得二十ヶ条

富名腰義珍

- 一、空手は礼に初まり礼に終る事を忘るな。
- 二、空手に先手なし。
- 三、空手は義の輔け。
- 四、先ず自己を知れ而して他を知れ。
- 五、技術より心術。
- 六、心は放たん事を要す。
- 七、禍は懈怠に生ず。
- 八、道場のみの空手と思ふな。
- 九、空手の修業は一生である。
- 十、凡ゆるものを空手化せ其処に妙味あり。
- 十一、空手は湯の如く絶えず熱を与えざれば元の水に返る。
- 十二、勝つ考えは持つな、負けぬ考えは必要。
- 十三、敵に因つて転化せよ。



空手衣のヒロタ

www.karategi-hirota.co.jp

特別仕立て
組手用ビナック、型用#163
大好評発売中！！



日本空手協会指定
準サポーター

● 本社：
〒144-0052
東京都大田区
蒲田5-33-6NSビル1F
Tel: 03-3730-5366
Fax: 03-3730-5336
e-mail: tokyo@karategi-hirota.co.jp

● 福岡支店：
〒812-0018
福岡県福岡市博多区
住吉4-2-15
Tel: 092-475-1810
Fax: 092-475-1817
e-mail: fukuoka@karategi-hirota.co.jp

● 愛知工場：
〒445-0802
愛知県西尾市米津町
露台16-3
Tel: 0563-54-3600
Fax: 0563-54-5822



十四、戦は虚実の操縦如何にあり。

十五、人の手足を剣と思え。

十六、男子門を出ずれば百万の敵あり。

十七、構えは初心者に、あとは自然体。

十八、型は正しく、実戦は別もの。

十九、力の強弱、体の伸縮、技の緩急を忘るな。

二十、常に思念工夫せよ。

〔編者註〕

「空手に先手なし」について

「受も極なり」という空手独特の考え方から生まれたものであり、このような鍛練の裏付けがあつて、はじめて可能な事である。このような「極」がなくなれば、やがて「礼節」も失われるようになると思われる。

昭和四十三年（一九六八）、松濤同門の人々によって、鎌倉の円覚寺に建てられた、翁の頌徳碑がある。向かつて右には翁の筆跡で「海南の神技云々」の詩が刻まれ、左には円覚寺の管長朝比奈宗源老師の書によって「空手に先手なし」と大きく刻まれている。

「心は放たん事を要す」について

禅僧沢庵が柳生宗矩に送った「不動智神妙録」の「心の置所」および「求放心」の中で、詳しく説いている。

「尚武」

日本空手協会総本部指定

尚武オリジナル

袴式空手衣



山梨県山梨市上神内川402-1

有限会社 尚 武

〒405-0018

電話 (0553) 23-5320

FAX(0553) 23-5340

海南神技是空拳
可恨衰微絶正伝
誰作中興大成業
斯心奮発誓蒼天

海南の神技是空拳
恨む可し衰微して正伝を絶つ
誰か作さん中興大成の業
斯の心奮発して蒼天に誓う

戦後最初の公開演武会において詠む

武器なきに

国を護るは

空手にて

鉄壁築け

千万の民

国土交通大臣登録旅行業第361号／日本旅行業協会正会員

株式会社 **旅行開発センター**

代表取締役 小林 昇（師範会会員）

〒104-0061 東京都中央区銀座1-16-7 友泉銀座ビル11階

TEL. 03-5159-1080 FAX. 03-5159-1090

担当：三浦・安部

第4回

熟練者

全国空手道選手権大会

日時／平成16年10月16日
場所／御殿場市総合体育館

形の部

知之者
不如好之者
好之者
不如樂之者

孔子



熟練者大会は今回で第4回を数え、過去最大数の参加者が麗峰富士の麓、御殿場市総合体育館に集結した。海外からはニューヨークの城間氏も参加し、大会当日は台風一過のさわやかな秋晴れで、最高のコンディションで開催された。

午前には個人戦形試合の予選、順位決定戦として団体戦予選、三位決定戦が行われ、午後には個人戦組手の予選、そして決勝戦、そして団体戦の決勝戦がおこなわれ、熟練の技を競う熱戦が繰り広げられた。

男子70歳形の部では高浦英児(千葉)が壮大なスケールの観空大で2度目の優勝を極めた。篠井浩(岡山)も見事な鉄騎三段の演武であったが惜しくも準優勝となった。

男子65歳形の部では中山洋明(埼玉)が円熟の五十四歩小を演武し優勝。

男子60歳形の部では折目哲也(三重)が年齢を感じさせない切れのある雲手を演武、根本功(千葉)の力強い十手を押さえ優勝、実に四連覇を果たした。

男子55歳形の部では古宇田巖(千葉)が抜群の二十四歩を演武、うれしい初優勝を成し遂げた。

男子50歳形の部では昨年組手試合での反則負けで形試合に出場できず涙を飲んだ芹沢章夫(静岡)が十手で一度目の優勝を果たした。

男子45歳形の部では山田光生(三重)が豪快な十手で2度目の優勝を成し遂げた。今年は娘の香蓮ちゃんも全国大会、松壽杯で形の部で優勝、うれしい一年となった。

男子40歳形の部では竹内一成(三重)が壮鎮で他を寄せ付けず優勝。三連覇を成し遂げた。

女子55歳形の部では根本真理子(千葉)が円熟の半月で初優勝。

女子50歳形の部では若梅陽子(千葉)が珍手で2度目の優勝。

女子45歳形の部では村津真理子(兵庫)が珍手で2度目の優勝。

女子40歳形の部では菊池たか子(新潟)が抜群の珍手で2度目の優勝。
女子35歳形の部では秋山実和(新潟)が五十四歩小で3度目の優勝。



男子70歳形の部優勝の高浦英児。形は観空大。



男子65歳形の部、優勝の中山洋明。形は五十四歩小



男子60歳形の部優勝の折目哲也。形は雲手。



男子55歳形の部優勝の古宇田巖の二十四歩



男子50歳形の部優勝の芹沢章夫の十手



男子40歳形優勝の竹内一成の壮鎮



女子55歳形の部優勝、根本真理子の半月



男子70歳形の部2位の篠井浩の鉄騎三段



女子50歳形の部優勝の若梅陽子の珍手



男子45歳形の部優勝、山田光生の十手



女子45歳形の部優勝、村津真理子の珍手



女子40歳女子形の部優勝の菊池たか子の珍手



女子35歳形の部優勝、秋山実和の五十四歩小

組手の部

個人戦組手では好試合が各部門で展開、激戦が繰り広げられた。

男子50歳組手の部準決勝、張黎民(東京)と森田昌秋(東京)の対戦はお互い譲らず、再試合にもつれる好試合となった。その接戦を張が乾坤一擲の中段逆突きを極め勝利、決勝に駒を進めた。

また40歳組手の部の準決勝、内山と山崎の対戦、山崎は昨年の大会から参加し、その鋭い攻撃で昨年も活躍した名手、一方内山も過去東海大会を制し、長年三重県代表で全国大会に出場した実力者である。



男子50歳張黎民(東京)と森田昌秋(東京)の対戦。乾坤一擲の中段逆突きで張が勝利。張は長年総本部で研鑽するベテランである。

予断を許さぬこの試合、先に仕掛けたのは山崎であった。一瞬の間隙をつき中段逆突きを極め技ありを先行、このまま勝利を手にするかと思われたが、内山が足払いからの本を極め逆転勝利、決勝進出を果たした。



男子40歳組手の部、形で準優勝を極めた山崎(左)と内山(右)の対戦は内山が逆転の一本勝ちで勝利。

また男子55歳準決勝、大谷章助(千葉)と藤田正晴(兵庫)の対戦。



千葉の大谷そして兵庫・藤田という実力者同士の好カードとなった男子55歳組手の部。大谷(左)は攻めの組手で勝利を手にした。

藤田は昨年決勝で根本功と名勝負を展開、惜しくも敗れたものの、切れのある技で会場を魅了した名手である。

一方大谷は第2回大会で優勝、常に上位に絡む実力者、しかし昨年は肩を脱臼し、悔し涙を飲んでいる。

この好試合を今大会好調の大谷が攻めの組手で制し決勝へ進んだ。

個人戦組手決勝、目を離せない好試合が続出した。

個人戦女子35歳組手の部、大金幸江(東京)と遠藤直美(千葉)の対戦は中段突きを連取した大金が優勝。

女子40歳組手の部では小西康子(福岡)と長谷川由美(兵庫)の対戦は中段突きを以て足払いを交わしての上段突きを極めた長谷川が勝利、優勝を極めた。

女子45歳組手、橋本久美子(東京)と富川(恵)千葉の対戦は上段突きを立て続けに決めた橋本が優勝。

女子50歳組手、鈴木朝子(三重)と橋本洋子(岐阜)の対戦、接戦を中段突きを極めた鈴木が優勝。

女子55歳組手の部では沢田貞子(千葉)と根本真理子(千葉)が対戦、前蹴り追い突き、そして中段突きを決めた根本が勝者に。形・組手完全優勝に輝いた。

男子40歳組手、内山富夫(三重)と塩田卓央(東京)の対戦、終了間際に中段突きを受けての上段突きを極めた内山が優勝した。

男子45歳組手、深見彰(京都)と富田勝(栃木)の対戦は、後の先の上段突きを立て続けに極めた深見が昨

年に続き優勝。

男子50歳組手の部、山本英(兵庫)と張黎民(東京)の対戦、山本が上段突きを連取、優勝を果たした。

男子55歳組手、大谷章助(千葉)と竹中直志(富山)の対戦、怒涛の攻めで上段突きを極めあわせ二本、大谷が2度目の優勝を極めた。

男子60歳組手の部、根本功(千葉)と鈴木軍次(静岡)の対戦、根本は終始主導権を握り、刻み突きからの



男子70歳組手の部、静岡・諫星(左)と福岡・桜庭(右)の決勝戦。諫星の攻撃を冷静に見切り、桜庭が初優勝を極めた。



男子65歳組手の部、福岡・神野(左)と埼玉・中山(右)の決勝戦。神野が勝利し、三連覇を成し遂げた。



男子60歳組手の部、静岡・鈴木(左)と千葉・根本の決勝戦。根本は緒戦で茨城・川瀬との対戦を制し決勝へ。見事昨年に続き優勝を極めた。



男子55歳組手の部、千葉・大谷(左)と富山・竹中(右)の決勝戦。竹は今大会躍りや、一本を取るなど見事な組手で決勝進出。一方大谷は藤田との激戦を制し決勝へ。今大会、怒涛の組手が浮いた大谷が2度目の優勝を極めた。

上段逆突き、そして足払いからの上段突きを極めた根本が勝者に、昨年に続き優勝を極めた。

男子65歳組手神野勝(福岡)と中山洋明(埼玉)の対戦はそして上段の連突きを極めた神野が勝者に。

男子70歳組手の部、諸星保明(静岡)と桜場稔(福岡)の対戦、出会いの上段突きを極めた桜場が優勝を極めた。



女子50歳組手の部、三多摩・鈴木(左)と岐阜・橋本(右)の決勝戦。鈴木が三連覇を達成。



女子45歳組手の部、東京・橋本(左)と千葉・富川(右)の決勝戦。橋本がうれしい初優勝を極めた。



女子40歳組手の部、福岡・小西(左)と兵庫・長谷川(右)の決勝戦は長谷川が小西の猛攻を抑え優勝。



女子35歳組手の部、東京・大金(左)と千葉・遠藤(右)の決勝戦。大金が勝利し、昨年の準優勝に続き、2度目の優勝を極めた。



男子50歳組手の部、東京・張(左)と兵庫・山本(右)の決勝戦。山本は懐の深さを生かした組手で張に組手をさせず、優勝を極めた。



男子45歳組手の部、京都・深見(左)と栃木・富田(右)の決勝。深見は終始勝ち組で富田の攻撃を押し退け勝利、昨年に続き優勝を極めた。



男子40歳組手の部、東京・塩田(左)と三重・内山(右)の決勝。塩田は昨年に続き決勝進出。一方内山は準決勝・山崎との接戦を制し決勝へ。間合いを制した内山がうれしい初優勝を極めた。



女子55歳組手の部、千葉・沢田(左)と千葉・根本(右)の決勝戦。根本が形に続き組手も制した。



千葉・岩淵(左)対三多摩・竹内(右)の対戦は竹内が勝利、先鋒戦を制した。



千葉・大谷(左)と三多摩・小池(右)の三鋒戦は大谷が勝者に。



千葉・根本功は三多摩・折目哲也との五鋒戦。見事な鉄騎初段を演武し、千葉に貴重な一勝をもたらす。

しかし、千葉三鋒・大谷が攻めの組手で勝利、千葉に貴重な4ポイントをもたらす。四鋒戦は三多摩日橋が6ポイントをもたらす。

五鋒戦、千葉・根本と三多摩・折目の好カードは根本が円熟の鉄騎初段で勝利し千葉に4ポイント。14対8で三多摩が6ポイントリードで迎えた副将戦、千葉・若梅と三多摩・鈴木の対戦を鈴木

が勝利し18対8とし大将戦を残し三多摩の勝利が確定。うれしい2度目の優勝を極めた。



三多摩はうれしい2度目の優勝を果たした。



惜しくも準優勝・千葉県



御殿場高原ビールで乾杯!

社団法人日本空手協会 第4回熟練者全国空手道選手権大会結果

主催：社団法人日本空手協会 / 開催場所：静岡県御殿場市総合体育館 / 開催日時：平成16年10月16日(土)

【形の部】

	優勝	準優勝	3位
男子 40才	竹内 一成 (三多摩)	山崎 力 (神奈川)	石田 賢司 (東京)
男子 45才	山田 光生 (三重)	鈴木 尚登 (長野)	深見 彰 (京都)
男子 50才	芹沢 章夫 (静岡)	村津 慶紀 (兵庫)	横須賀秀夫 (千葉)
男子 55才	古宇 田蔵 (千葉)	瀬戸 謙介 (東京)	ポリグランドイ (兵庫)
男子 60才	折目 哲哉 (三多摩)	根本 功 (千葉)	篠崎 剛 (愛媛)
男子 65才	中山 洋明 (埼玉)	金井 正成 (埼玉)	神野 勝 (福岡)
男子 70才	高浦 英児 (千葉)	篠井 浩 (岡山)	桜場 稔 (福岡)
女子 35才	秋山 爽和 (新潟)	西田美由紀 (京都)	大金 幸江 (東京)
女子 40才	菊地たか子 (新潟)	小西 康子 (福岡)	野田留美子 (福岡)
女子 45才	村津真理子 (兵庫)	橋本久美子 (東京)	森口 幸子 (静岡)
女子 50才	若梅 陽子 (千葉)	鈴木 朝子 (三多摩)	河内 辰子 (福岡)
女子 55才	根本真理子 (千葉)	久住 泰子 (兵庫)	

【組手の部】

	優勝	準優勝	3位
男子 40才	内山 富夫 (三重)	塩田 卓央 (東京)	山崎 力(神奈川) 石田 賢司(東京)
男子 45才	深見 彰 (京都)	富田 勝 (栃木)	市毛 悟(茨城) 山田 光生(三重)
男子 50才	山本 英一 (兵庫)	張 黎民 (東京)	森田 昌秋(東京) 村田 和則(三重)
男子 55才	大谷 章助 (千葉)	竹中 直志 (富山)	藤田 正晴(兵庫) 大本 敏信(長野)
男子 60才	根本 功 (千葉)	鈴木 軍次 (静岡)	高橋 和夫(東京) 島田 和紀(石川)
男子 65才	神野 勝 (福岡)	中山 洋明 (埼玉)	生田 英明(兵庫) 稲室 吉之(千葉)
男子 70才	桜場 稔 (福岡)	諸星 保明 (静岡)	高浦 英児(千葉)
女子 35才	大金 幸江 (東京)	遠藤 直美 (千葉)	小泉エリア(三多摩) 近西るみ子(東京)
女子 40才	長谷川由美 (兵庫)	小西 康子 (福岡)	野瀬美保子(岐阜) 安保 祥子(神奈川)
女子 45才	橋本久美子 (東京)	富川 一恵 (千葉)	村津真理子(兵庫) 森口 幸子(静岡)
女子 50才	鈴木 朝子 (三多摩)	橋本 洋子 (岐阜)	河内 辰子(福岡) 家田きよ子(茨城)
女子 55才	根本真理子 (千葉)	沢田 貞子 (千葉)	久住 泰子(兵庫)

【団体戦(都道府県対抗戦)】

優勝	準優勝	3位
東京三多摩	千葉県	福岡県



OB連合会から横断幕が寄贈された。



協会に所属する大学生が駒澤大学に集結、熱戦が繰り広げられた。

社団法人日本空手協会

平成一六年度 秋季

関東学生会定期リーグ戦

日時：平成16年10月31日(日)

場所：駒澤大学体育館

主催：社団法人日本空手協会関東学生会

協力：社団法人日本空手協会OB連合会

社団法人日本空手協会に所属する関東近郊の大学生が駒澤大学に集結、激戦を繰り広げた。

来年には50周年を迎える学生リーグ戦、記念大会が来年秋季に行われる予定でもあり、OB連合会から横断幕も寄贈され、清辺哲男OB会会長の挨拶のもと開会が宣言された。

今回の注目は男子1部リーグの関東学院大学、先の全国大会では駒澤大学に敗れたものの、初の決勝進出を果たした。今回はリーグ戦、その実力が試される。また女子個人戦では全国大会優勝の駒澤大学1年の若林梨沙、そして松濤杯で大活躍した新井彩可が出場する。二人が対戦するとすれば決勝戦、好試合が期待できる。学生の熱い戦いが始まった。

団体戦男子1部 駒澤大学が賞状の優勝！

準優勝に大躍進！ 関東学院大学！！

団体戦女子1部 駒澤大学アベック優勝

男子1部リーグ、駒澤大学はレギュラー核の選手を要所で使いながら全戦勝利し、その実力を見せ付けた。注目の関東学院大学は大正大学との直接対決を3-2の接戦で勝利し、駒澤大学、国士館大学に破れたもののリーグ戦を3勝2敗とし、見事準優勝した。三位には大正大学が入賞した。

個人戦

関口 庸平 攻めの組手で東京経済大学

上野均に競り勝ち！

新井 彩可 激戦の女子個人戦を制す！

男子個人戦は東京経済大学4年上野均が2部リーグながら1部学生を撃破し、決勝に進出。大

正大学関口庸平と対戦、善戦するも惜しくも敗退した。

2部リーグながら決勝進出した上野の健闘は2部、3部の学生に良い目標となるだろう。

また女子個人戦には今年、大学1年生ながら全国大会にて優勝した若林梨沙(駒大)と先の松濤杯で個人、団体ともに大活躍した、新井彩可(大正大1年)が出場。好試合が期待された。

新井は持ち前の攻めの組手で決勝に進出。

しかし若林が思わぬ伏兵に敗退する。

青山学院の藤元靖子である。藤元は準々決勝で若林を、そして準決勝では同門の岡島洋恵を下し、決勝進出。

新井と藤元の決勝は終始積極的に試合を進めた新井が勝利、激戦の女子組手を制した。

入れ替え戦

東京経済大学 防衛大学校 1部昇格

日本大学農獣医学部 2部昇格

今回入れ替え戦で大きな動きがあった。3部日本大学農獣医学部が2部昇格、そして注目は1部への昇格をかけた大一番。

東京経済大学は個人戦準優勝した上野均を中心に2部優勝を果たし、入れ替え戦を青山学院大学と対戦、見事勝利し、1部昇格をはたした。

また2部2位の防衛大学校は千葉工業大学と対戦。大将戦までもつれ込んだこの対戦を防衛大学校が勝利し1部に昇格を果たした。

空手道に関する商品を

全国ネットでスピード配送致します。

空手衣の
YAMAGA

株式会社 山 雅

〒543-0014 大阪府天王寺区玉造元町17番14号 福川ビル
TEL. (06) 6768-2340 (代)・FAX. (06) 6768-2351
URL : <http://www.yamaga-karategi.com>
E-mail : info@yamaga-karategi.com



個人戦準優勝の藤元靖子(青山学院大学)。優勝候補の若林梨紗(駒澤大学)を破り決勝に進むも、決勝で惜しくも涙を吞んだ。



女子個人戦優勝の新井彩可(大正大学)は松澤杯個人・団体戦でも活躍、鋭い攻撃で激戦を勝ち抜いた。



個人戦準優勝の上野均(東京経済大学)は団体戦においても1部昇格の原動力となった。



個人戦優勝の関口庸平(大正大学)、終始落ちついた相手に個人戦を制した。



見事激戦を制し、1部昇格を果たした防衛大学校



女子優秀選手右から藤元(青山学院大)、新井(大正大)、佐藤(駒沢大)



男子優秀選手。右から松丸(駒沢)小出(関東学院)、大友(大正大)



青山学院大学との入れ替え戦を制し1部昇格を果たした東京経済大学



関東学院大学・星月VS大正大・行方は群馬・流川空友館出身の同門対決。行方が勝者に。



千葉工大・宮本は1年生ながら思い通りの良い相手に個人・団体ともに活躍した。



2部昇格。日本大学農獣医学部!



関東学院大学準優勝の原動力となった小出

社団法人日本空手協会 平成16年度秋季関東学生会定期リーグ戦大会結果

日時:平成16年10月31日(日) / 会場:駒澤大学体育館 / 主催:社団法人日本空手協会関東学生会 / 協力:社団法人日本空手協会・OB連合会

<p>優 勝 新井 彩可(大正大学)</p> <p>準優勝 藤元 靖子(青山学院大学)</p> <p>三 位 岡島 洋忠(青山学院大学)</p> <p>田村 優(大正大学)</p> <p>女子個人戦</p> <p>優 勝 関口 庸平(大正大学)</p> <p>準優勝 上野 均(東京経済大学)</p> <p>三 位 飯塚 俊介(大正大学)</p> <p>渡辺 秀太(大正大学)</p> <p>男子個人戦</p> <p>優 勝 筑波大学医学部</p> <p>準優勝 東京女子体育大学</p> <p>三 位 防衛大学</p> <p>女子2部リーグ</p> <p>優 勝 駒澤大学</p> <p>準優勝 大正大学</p> <p>三 位 青山学院大学</p> <p>女子1部リーグ</p> <p>優 勝 武範(駒澤大学)</p> <p>小出 修也(関東学院大学)</p> <p>大友 祐貴(大正大学)</p> <p>男子優秀選手</p> <p>優 勝 日本大学農獣医学部</p> <p>準優勝 自治医科大学</p> <p>三 位 東京電機大学1部</p> <p>男子3部リーグ</p> <p>優 勝 防衛大学</p> <p>準優勝 防衛大学</p> <p>三 位 亜細亜大学</p> <p>男子2部リーグ</p> <p>優 勝 駒澤大学</p> <p>準優勝 関東学院大学</p> <p>三 位 大正大学</p> <p>優 勝 1部昇格</p> <p>1部昇格</p> <p>2部昇格</p>
--

世界大会と伊勢志摩国際交流 空手を通じて日本通

JKA ス페인責任者 青木修
(第9回松濤杯空手世界選手権選手権大会参加者)



社団法人 日本空手協会 日本・スペイン親善 空手国際交流会 主催 皇學館大学空手道部09会 2004.9.25

心よりの大歓迎を受け、迎える方、迎えられる方の両者が感激に浸ることが出来て嬉しい。
三重県伊勢市、皇學館大学、志摩スペイン村が主催の日本・スペイン空手交流会では、サムライの精神が逆輸入された感じで、すがすがしい思いがしたとまで喜んでいただいた。

私が苦労したのは礼節の「節度」である。これはラテン系スペイン人にはまったく、ちんぷんかんぷんであり、いつも基本の時間厳守で、35年間、いまだに耐えがたきを耐えてきた「節度」の感じ。

節度という当てはまる言葉は無く、竹の節(竹も無い)関節など、ありとあらゆる例をならべて説明するが、納得させるのは難しい。しかし今回は空手の三要素、力の強弱、体の伸縮、技の緩急を例にとり、強から弱、伸から縮、緩から急への瞬間に心身ともに気を配って変わる状態である。

スペイン人は声が大きく、はしゃいでしまうと切り替えが難しい。

一度だけ、皇學館大学、JKA三重との皆さんとの合同合宿、その後のパーティにて学生達と大騒ぎ、あまりの嬉しさに帰った宿の風呂の中でもカラオケ騒ぎで翌朝、また節度についての御説教を受け、帰りのバスの中ではしゅんとして、一人ひとりが後で謝りに来た。

しかし生徒の一人が面白いことを言った。
先生、スペイン人が日本に着たら半分以上が「節度」を持っていないからと、これは私も大笑いで、あなたのこれからの指導はやりがいがあるってすねと励ました。
また、今回最大の思い出はもちろん言うまでも無く武道館での世界大会、そして伊勢志摩への4泊5日の旅でした。

毎日ピシシリと日程が決まり、強行軍でしたが、まず、伊勢での神宮、ちょうど恐れていた大雨も上がり、霧も立ち込める神秘的な雰囲気の内、神聖この上ない一面までも参拝が許されました。

内宮神楽殿での舞(全員正座で長い間よく頑張った、あと、立てなかつたが)、や境内のすばらしさにはみな日本の原点に触れることができたとして感動しました。
この後、日本を離れる前日、故中山主席師範のお墓参りに行ったとき、東京原宿族の変わった人々を見て驚いた様子、日本も極端な文化だなど。

翌日は志摩のスペイン村に招待され、そこはスペインにいるのとは、と錯覚してしまうほどに素晴らしい所でした。皆、ひと時をくつろぐことができました。皆様も是非一度訪ねてみてください。各名所が一日で味わうことが出来ます。

スペイン村関係者の皆様、今回の招待心より感謝すると共に、スペインを正しく評価されて下さったことにみな嬉しく感じました。ピーバ、エスパニヤ、ピーバ、ハボン。(スペイン、日本万歳の意味)

日本空手協会、会長、首席師範、理事の皆様、指導員ならびに大会関係者の方々、苦勞様でした。
そして、伊勢志摩の旅をアレンジしてくれた大坂師範、伊勢市長、皇學館大学理事長ならびに空手道部の諸君ありがとうございました。

日本・スペイン空手交流会を催して下さったスタッフの方々、特に現地責任者の皇學館総務、南様。また、我々と4泊5日を寝食共にしてバスの運転で送迎までしていただいた四宮会長、楠林監督にはお礼の言葉もありません。いつまでも我々の心にすばらしい思い出として残る事でしょう。

次にスペイン人の感想を述べてみた。

先ず我々がこの旅行で感じたことは挨拶の方法である。我々の挨拶は相手と握手、頬にキスや抱き合うことで感情をあらわす。日本では頭を下げて行いが、最初この方法は何か、冷たく、そして相手との距離感も感じさせられる気がした。しかし時間がたつにつれ、ただ握手でするよりも、礼儀や尊敬の念を相手に伝える微妙な繊細さが含まれていると思いはじめた。タイミングも難しい、人と人の接触を必要としないで、つまり頭を下げあうことによつて脳が持つ電磁波をお互いに同調させるのでは?

次に我々が強く感じたことは、空手は単に道場だけの身体トレーニングではなく、生きていくための方法や、理解する手段だということ。決断、責任等など精神、感情に至るまで。もちろん試合というのは空手の一面を築く重要なもの、日常良くある、成功、落胆に伴うように、しかし、空手の本質は数分で終わるタタミの上と違い一生を通じての事、そのゆえに共存生活、敬意、謙虚、寛容等なども稽古を通じて学び、その上、いつでもそのような状態でもベストのコンディションである準備が出来ている努力をすることなど。

神宮での参拝は非常に壮観でもう少し長く滞在したい、と心残りであった。

先ず、建築物の清潔さに驚いた。木を主体として使用、巧妙で清潔、完璧に自然との調和が取れていた。

ヨーロッパの教会のような派手さは無く、周りを囲む境内も我々に安らぎと安心感を感じさせてくれた。新たに、日本の文化というものはとても自然に根づいたところより生まれたものであるという事。

その上、普通の人々が入れない一面まで通されるという特別待遇も受け、そこで内宮神楽殿の舞まで拝見できた。正座の時間が長くてきつくて立つのに苦勞したが、先生は最後まで足を崩して良いと言われなかった。(これも今良い思い出である。)

すばらしい思い出を作ってくれた日本人の皆様、本当にありがとうございました。

印刷ならなんでもご相談下さい

情報のコミュニケーションパートナー



株式会社サンワ

〒102-0072 千代田区飯田橋2-11-8 サンワビル
TEL. 03-3265-1816 FAX. 03-3265-1847

●小学低学年女子	優勝 小砂 怜菜(鳥根・松江)	準優勝 桑田 紗紗(柏 島)	第三位 柴田 楓花(久 世)
●小学中学年男子	優勝 間所 龍洋(誠道館)	準優勝 片岡 佑介(津 山)	第三位 富部 翔太(阿新正田)
●小学高学年男子	優勝 伴 佳喜(真 備)	準優勝 谷川 太将(津 山)	第三位 田上 拓磨(岡 山)
●中学生男子	優勝 佐々井智彦(玉島中央)	準優勝 吉泉 寛樹(岡 山)	第三位 鈴木 倫央(六条院)
●一般男子	優勝 土屋 周太(林 原)	準優勝 八代 浩揮(岡 山)	第三位 西川 昌幸(岡 山)
●一般女子	優勝 廣内 絵里(林 原)	準優勝 筒井 尚子(林 原)	第三位 大政 朋子(林 原)
●小学低学年女子	優勝 白藤 潤子(六条院)	準優勝 池宗真理子(六条院)	第三位 横道 充央(六条院)
●小学中学年男子	優勝 熊山 翔太(津 山)	準優勝 片岡 佑介(津 山)	第三位 富部 翔太(阿新正田)
●小学高学年男子	優勝 田上 拓磨(岡 山)	準優勝 前田 裕介(誠道館玉野)	優勝 田上 拓磨(岡 山)

●小学低学年	準優勝 真野 良介(マスカット)	第三位 安達 翔平(誠道館玉野)	大杉 淳(阿新正田)
●小学高学年	優勝 森田 春菜(鳥取・河原)	準優勝 影山日向子(岡 山)	第三位 田上 愛恵(岡 山)
●小学中学年	優勝 鈴木 倫央(六条院)	準優勝 真野 光弘(林 原)	第三位 片岡アキミ(岡 山)
●中学生女子	優勝 八代明睦子(岡 山)	準優勝 山脇 正実(阿新正田)	松田 拓也(鳥根・松江)
●一般男子	優勝 土屋 周太(林 原)	準優勝 三村 尚也(誠道館)	第三位 堀 純希(柏 島)
●一般女子	優勝 西川 昌幸(岡 山)	準優勝 川端 美穂(久 世)	第三位 戸田 英行(久 世)
●高校男子	優勝 土屋 周太(林 原)	準優勝 三村 尚也(誠道館)	第三位 堀 純希(柏 島)
●高校女子	優勝 西川 昌幸(岡 山)	準優勝 川端 美穂(久 世)	第三位 戸田 英行(久 世)
●小学低学年	優勝 古泉美奈実(岡 山)	準優勝 高木 恵(誠道館玉野)	第三位 金井 美友(岡 山)
●小学中学年	優勝 古泉美奈実(岡 山)	準優勝 高木 恵(誠道館玉野)	第三位 金井 美友(岡 山)
●小学高学年	優勝 古泉美奈実(岡 山)	準優勝 高木 恵(誠道館玉野)	第三位 金井 美友(岡 山)

大会熱戦録

(開催順)

●小学低学年	敢闘賞 横道 充央(六条院)	池宗真理子(六条院)	中本 健太(六条院)	臼井ひろ美(久 世)	前高 匠登(鳥取・米子)
●小学中学年	敢闘賞 熊山 翔太(津 山)	坪井 美佳(マスカット)	川口 哲平(六条院)	石井 雄斗(六条院)	三宅 舞弥(六条院)
●小学高学年	敢闘賞 東 裕太(誠道館玉野)	大賀 皓史(誠道館玉野)	木村 亮祐(玉島北)	山脇 正実(阿新正田)	橋本 秀明(阿新正田)

●小学低学年	敢闘賞 富部世理奈(阿新正田)	芥川 昇司(玉島北)	安藤 浩輝(勝間田)	柴田 楓花(久 世)
●小学中学年	敢闘賞 中村 良平(鳥取・米子)	石浦 邦彦(古 田)	間所 龍洋(誠道館)	川端 葵乙(久 世)
●小学高学年	敢闘賞 塚中 将成(岡 山)	谷川 太将(津 山)	佐々木京平(誠道館)	馬場 健(久 世)
●小学低学年	敢闘賞 本岡 実咲(鳥取・米子)	横山明利紗(阿新正田)	野備 幸花(マスカット)	三浦 遥香(古 田)

〈お知らせ〉

去る世界大会祝勝会において、新潟県中越地震災害義援金を集め、全国市議会議長会と新潟県本部に募金させていただきました。

〈お詫び〉

前回発送上の手違いにより、JKAニュースの発送が一ヶ月以上遅れたことをお詫び申し上げます。

広報部 大隈広一郎

〈投稿歓迎〉

昇段審査結果は次号にまとめて掲載致します。全国の会員の皆様の投稿をお待ちしています。支部・道場の行事の模様などの「原稿・写真」をお気軽にお寄せください。投稿原稿は800字以内。ワープロ・パソコン(FD)、原稿用紙でお願います。なお投稿いただいた原稿等は原則として返却いたしませんのでご注意ください。ホームページ、電子メールもご利用ください。詳細はお問い合わせください。

●宛先 〒112-0004 東京都文京区後楽2-23-15 日本空手協会本部「JKAニュース」係
TEL.03-5800-3091(担当・中)
●ホームページ <http://www.jka.or.jp> ●電子メール sohonbu@jka.or.jp

〈各地区編集委員〉

北海道地区	網谷貞幸	TEL/FAX 011-832-1182
東北地区	佐藤範明	TEL/FAX 022-285-3209
関東地区	瀬戸謙介	TEL 03-3714-6469 FAX 03-3714-4093
北信越地区	大日方俊夫	TEL 026-244-2659 026-234-5964 FAX 026-244-4170
東海地区	池山正仁	TEL 052-351-7300 FAX 052-355-3557
近畿地区	小島弘己	TEL/FAX 0720-75-0295
九州地区	鶴田敏昭	TEL 092-661-0500 FAX 092-661-0504

〈次号「2005年春号」は3月発行の予定です〉

協会の型を完全網羅!

空手道型教本 絶賛発売中

第1巻	平安初段・武段・参段・四段・五段、鉄騎初段	2000円(税込)
第2巻	抜塞(大)、観空(大)、慈恩、燕飛	3000円(税込)
第3巻	岩鶴、十手、半月、鉄騎武段・参段	3000円(税込)
第4巻	抜塞(小)、観空(小)、壮鎖、二十四歩、雲手	3000円(税込)
第5巻	王冠、五十四歩(大)、五十四歩(小)、明鏡、珍手	3000円(税込)

発行●日本空手協会・師範会 03(5800)3091

(社)日本空手協会指定 審判用スラックス



フックアップ ポリエステル100%
ウエスト73~88cm ¥7100(税込)
ウエスト91~110cm ¥7400(税込)
(サイズは3cm刻み、縦上げはご自身でお願います)
送料(1~9本) ¥800
10本以上無料

問い合わせ先 (株)東海堂 03-3262-0281